



学校だより

令和5年5月31日

学校教育目標

6

月

号

ともに学び、創り出し、行動する子 =輝く自分、輝く鶴小=

横浜市立 鶴ヶ峯小学校

(<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tsurugamine/>)

かわらないもの かわりゆくもの



副校長 丹野 悦子

5月8日。コロナが感染症法上の位置づけが2類感染症から5類感染症へと移行し、自主的な取り組みをベースとした対応に変わりました。個々の判断でマスクを外せるようになり、学校では机を向かい合わせにしての活動や楽しい給食の時間をもてるようになりました。重症化リスクや感染力が季節性インフルエンザと同等となったとはいえ、感染のリスクがまったくなくなったというわけではあ

りません。まだマスクを外すことに不安のある子どもが多いようです。学校生活の中では、熱中症の危険から命を守るために、マスクを外す指導をすることがあることをご承知おきください。

これからの私たちの生活は、コロナパンデミック以前の生活に戻る(戻れる)のでしょうか。また、戻る必要があるのでしょうか。

「不易流行」という「奥の細道」に記された松尾芭蕉の言葉があります。

不易…いくら世の中が変わっても変わらないもの変えてはいけないもの
流行…世の中の変化とともにかわっていくもの

「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」不易流行とは不易と流行という相反する概念が一つになった言葉です。「変わらないものを理解しないで基礎は成立しないが、変わるものを理解しないときは進展がない」不易と流行のどちらか一方を重視するものではありません。ただ伝統を守るといっただけでは、前例を踏襲しコピーにコピーを繰り返すうち、元のものとは違ったものになってしまうことさえないとは言えない。おおもとはなんだったのか、本来はどうあるべきなのかを考えていないと間違いを起こしてしまいます。

「万代不易」「一時流行」に陥らず、かわらず続けていくべきものと変化していくほうが良いものを判断し決定していく。そんな力がこの予測困難な時代に育むべき資質・能力なのではないでしょうか。正解はないのかもしれませんが、答えは一つでないのかもしれませんが、しかし、答えを見つけようとする力・判断する力・決断する勇気、そして、行動することを、今の時代を生きぬくためにも身に付けたいものです。

私たちを取り巻く社会は、すさまじいスピードで変化しています。本校ではコロナ禍であっても、安全安心を一番に考え学校運営を続けてきました。これからも「不易流行」の考え方を意識して、教育活動を進めていきたいと考えています。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。